



桐

桐光会広報誌

第21号

平成28年8月17日発行

調布病院広報委員会
桐光会広報誌編集委員会

JMAT 熊本震災活動報告

平成28年4月に発生した熊本・大分地方の大震災発生後、4月27日東京都医師会会長尾崎治夫先生より日本医師会災害医療チーム（JMAT）派遣依頼がありました。

それを受け、調布市医師会では会員に希望者を募ると共に、前回東日本大震災の時の教訓を基に、薬剤師会にも協力を仰ぎ、薬剤師会でも会員を募集しました。

調布市医師会からは3班のチームが派遣されました。

調布病院も第2班として、田中奈保子医師・阿部順子看護師・佐久間敦子管理栄養士・高橋亜希子理学療法士・藤崎千尋薬剤師の5名で派遣しました。

第1班

日時：平成28年5月10日～5月13日

派遣先：熊本県阿蘇医療センター

第2班

日時：平成28年5月16日～5月19日

派遣先：熊本県阿蘇保健庁舎

第3班

日時：平成28年5月25日～5月28日

派遣先：熊本県南阿蘇村白水庁舎



JMAT 熊本震災活動報告 ① 田中 奈保子 医師

震災から約1ヶ月経過し、地元の開業医の先生方も通常診療に戻っておられた為、医療支援そのものは殆ど終了しておりました。

熊本県は県医師会と市医師会がそれぞれ独立し、相互連絡がないようで、被災と同時に県、市医師会がそれぞれに別々に全国各地に応援要請した為、被災地に入った色々な団体がごちゃ混ぜ状態で活動しており大混乱していました。

各団体がばらばらに避難所を訪問する為、被災者は医療支援に疲れ気味な状態でした。

県医師会は震源である益城町の対応に追われ、次に被害の大きい阿蘇地方の被災者の状況や活動内容が全く把握できておらず、JMATに課せられた役割は県医師会と各団体の仲介、地方の活動や被災者情報の上告、数百人規模で被災者が残っている避難場がある南阿蘇地方の各団体の統括でした。

19日最終日は天皇陛下が被災地をご訪問。普段日中は仕事や家の片付け等で閑散とした避難場に人があふれていました。



集団体操

JMAT 熊本震災活動報告 ② 阿部 順子 看護師

初日 前任チームからの引き継ぎ・阿蘇医療センターでミーティング (阿蘇地区の現況報告・活動報告)、見学

2日目 阿蘇医療センターにて病棟勤務

3日目 活動場所が南阿蘇村へ移動・南阿蘇村地区のミーティング・本田技研体育館避難所見学 (炊き出し状況見学)

4日目 南阿蘇中学の避難所見学 (パーテーション未設置) 移動薬局車見学・旧白水中学体育館 (避難所) での体操実施・パーテーション内に実際入ってみる 後任チームへの引き継ぎ



JMAT 熊本震災活動報告 ③ 藤崎 千尋 薬剤師

初日 前任チームからの引き継ぎ・阿蘇医療センターで全体ミーティング

2日目 南阿蘇村へ移動 (南阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議本部としての活動開始) 長野県の保健師チームに帯同・南阿蘇中学体育館など避難所見学

3日目 本田技研 (私設避難所) の視察 被災地の視察・全体ミーティング

4日目 旧白水中学体育館、南阿蘇中学体育館視察 後任チームへの引き継ぎ



JMAT 熊本震災活動報告 ④ 佐久間 敦子 管理栄養士

初日 阿蘇地域での活動はほとんどないこと、17日からは富山チーム JMAT を引き継ぐ形で南阿蘇の白水庁舎での活動を依頼される。

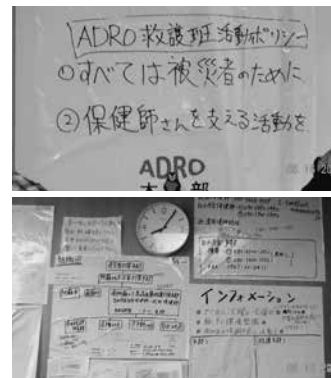
阿蘇医療センターで全体ミーティングに参加

2日目 南阿蘇の各避難所を訪問。四季の森では、ふくらはぎの浮腫を訴えている方の医療要請があり、医師の診察、薬の相談、栄養指導、運動療法などの活動を行う。総合医療センターでは、傷が化膿している方の処置を医師が行った。南阿蘇の健康増進課より、支援物資で医療用特殊食品の在庫管理を用途別に分類する作業を依頼される。

3日目 2箇所の避難所にある、支援物資の医療用特殊食品の用途別分類
南阿蘇体育館の支援物資は、離乳食用のレトルトパックがほとんどで、5大アレルギー用と普通の離乳食を月齢に分けて分類

白水庁舎の保管場所には、アレルギー用のミルクや栄養補助食品が多く、用途別に分類を行った。

4日目 各避難所の医療用特殊食品の残りの分類
母親学級で離乳食の調理理の手伝い



JMAT 熊本震災活動報告 ⑤ 高橋 亜希子 理学療法士

初日 前任チームとの引き継ぎ
阿蘇災害本部にて熊本県災害本部会議出席

2日目 南阿蘇村へ移動・南阿蘇村対策会議出席（朝、夕2回）
被災者の方への可動域訓練や運動指導実施

3日目 南阿蘇村対策会議出席（朝、夕2回）
熊本県災害本部会議出席・各被災地巡回

4日目 南阿蘇村対策会議出席・各被災地巡回
後任チームへの引き継ぎ



活動を終えて

【感想】

東日本大震災では、日本赤十字が主導で全国の派遣チームをコーディネートしていたが、熊本では主導権が医療従事者でなかった為、混乱が起きているように感じた。

JMATにより、集団体操を各被災地で実施されていましたが、参加者がほとんどいませんでした。治療だけでなく、精神的なケアが必要だと現場に行き感じました。

発災から1ヶ月が経ち、避難所での生活がほぼ確立していて、生活に密接した心理ケア等の介入時期であり、医療従事者だけでなくいろんな職種の必要性を感じた。

【問題点】

プライバシーの確保（二次避難所への移動を促しているが、うまくいっていない）

衛生面

避難所によって設備に差がある

個室でベッドがあるところもある

トイレもバケツに汲み置かれた水を使用している

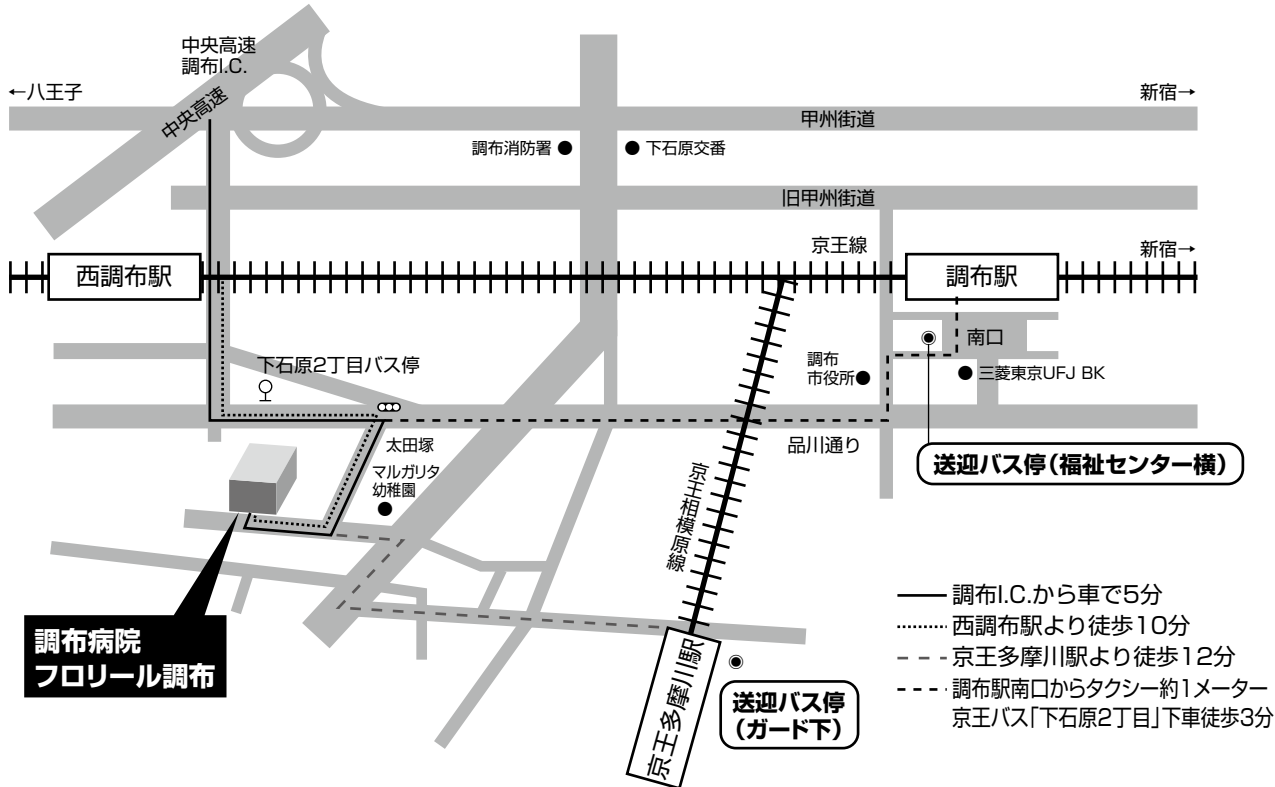
仕切りがある為、プライバシーは確保されているが、中の様子が分からず、具合の悪い人がいても気付けない。風通しが悪く、熱中症が心配。

薬剤を大量に希望したり、重複して受ける患者様がいるが、チェックが厳しい。

多くの方からお話をお聞きした中で印象に残った事が、熊本県医師会の方の『自分達のところで災害が起きて、様々な団体が来ての受け入れ態勢が出来ていなかった』です。

多くの自治体で言える事が、災害が起きた際に、行くノウハウはあるが、受け入れるノウハウが足りないということです。熊本地震の災害対策を教訓に、今後の災害対策について課題をクリアしていく必要があるのではないかと思います。

また、院内での災害があったときにどのように行動をとるべきか、基本の防災訓練を継続し、意識を高めていきたいです。



送迎バス時刻表 福祉センター横 ↔ 調布病院

調布駅発		調布病院発	
10 30 37	8	00 20 50	
00 20 40	9	10 30 50	
00 20 40	10	10 30 50	
00 20 40	11	10 30 50	
00 20 40	12	10 30 50	
00 30 40	1	20 30	
10 40	2	00 30	
20 40	3	10 30 50	
00 40	4	30 50	
00 25	5	15	
10	6	00	

○月～金曜日のみ ●火～土曜日のみ ●月曜日のみ ●土曜日のみ



京王多摩川駅経由、京王多摩川からの送迎バスの時刻は調布駅発3～5分後です。日曜祝祭日は運行しておりません。

地域密着型 医療+介護複合施設



5F	フロリール・デイケア施設
4F	長期療養病棟・一般病棟・LDR
3F	フロリール・入所施設
2F	手術室・一般病棟・SCU
1F	リハビリ CT/MRI・外来

医療法人社団 桐光会

182-0034 東京都調布市下石原3-45-1
<http://www.tokokai.or.jp>

調布病院

Tel.042-484-2626(代) Fax.042-481-0323

医療連携室

Tel.042-484-2513(直通)

介護老人保健施設 フロリール調布

Tel.042-484-2627

調布訪問看護ステーション

Tel.042-443-9765

救急室

産婦人科
 外来

検査室

訪問看護
 ステーション